

小泉 吉永 著

『心教を以て尚と為す』——江戸に学ぶ「人間教育」の知恵

今こそ原点回帰を

小泉 吉永



父母に挨拶する子供。中沢道二『道二翁童蒙訓』より。

のに対し、最近の五〇年間は「成功するためのイメージのつくり方、テクニク、あるいは、応急処置的な手法」に終始していた。

そして著者は、人格主義から個性主義に変貌した二〇世紀中葉以後の成功論は「その場しのぎの表面的」なもので、根本的な問題解決につながらないと述べた。

さて、昨年暮れに「二〇二〇年の幕開けは激動。物事が根底から崩れ、再構築される」と予見した占いのオリエリア・麗さんは、新型コロナウィルスの世界的大流行、すなわちパンデミックを「必要な試練」と受け止め、原点に立ち戻って、個人も社会もより良い方向に転換すべきだと助言している。たしかに、私たちは前に進むしかない。だが、密室・無縁化する家庭、孤立・弱体化する地域社会、人材不足と活力喪失に悩む企業、美辞麗句の掛け声ばかりで混迷する教育改革など、子育てや人づくりをめぐる課題は多く、「戦後最大の危機」がこれらをますます顕在化させるのではないだろうか。

このような難局や人生の岐路に立つたとき、大きな指針となるのが先人の教えである。このたびの『心教を以て

尚と為す』——江戸に学ぶ「人間教育」の知恵」の知恵」は、三〇年蒐集してきた教育史料を駆使した月刊『武道』の連載記事（三六回）に大幅な補訂を加えたもので、江戸時代の育児書など一〇〇余点が伝える子育て・人づくりの知恵を一冊に凝縮してある。

もともと一般読者向けの記事だったため、新たな史料に基づく記述を増やし、「原典による引用」「典拠の明記」「豊富な図版」「索引」などによって学術研究に十分資するようにくふうし、編集者の的確な助言によってさらに磨きをかけた。

松尾芭蕉は俳諧の本質を「不易流行」と表現した（『去来抄』）。「不易」は時代を超えて変わらないもの、「流行」は時代とともに変化していくものだが、両者は表裏一体であり、真の「不易」は「流行」し、真の「流行」は「不易」となると説いた。

本書で紹介した先人の知恵に、読者が、子育て・人づくりの不易を見出し、これを流行させる一助となれば、望外の喜びである。

●こいずみ・よしなが／学術博士
（金沢大学、往来物研究家）

『心教を以て尚と為す』

——江戸に学ぶ「人間教育」の知恵

小泉 吉永（往来物研究家）

江戸時代の育児書など二〇〇余点が伝える子育て、人づくりの知恵！
忘れられた日本人の英知を
読み解く三六講。

●〈本書の内容〉

- 〔第1章〕 早く、正しく育てよ
——先入主と年代別教育論
- 〔第2章〕 学んで親となれ
——父母の育児心得と実践
- 〔第3章〕 人を育てる極意
——厳格教育と徳教
- 〔第4章〕 修己治人のくふう
——しつけと志の教育

江戸に学ぶ「人間教育」の知恵 小泉吉永



江戸時代の育児書など100余点が伝える子育て、人づくりの知恵!!
忘れられた日本人の英知を
読み解く36講。

数文堂

A5判 並製 368ページ
予価：本体4,500円＋税（税込4,950円）